

カンフォロ Canforo

カンフォロ

Exhibition 企画展

愛媛県美術館ニュースNo.35 2008

No. 35

プラハ国立美術館展 ルーベンスとブリューゲルの時代

Flemish Paintings of the 17th Century from the National Gallery in Prague

平成20年2月9日[土] - 3月30日[日]

休館日は、本紙ご利用案内でご確認ください。

●会場 / 新館1階[企画展示室]

今日のベルギー北部にあたるフランドル地方で17世紀に花開いた藝術文化の豊穡さには、現代の我々の眼をも見張らせるものがあります。この栄えある時代の美術界を牽引していたのが、ルーベンスとブリューゲル一族です。

ルーベンスは、ギリシア神話やローマ史、聖書などから採ったドラマティックな物語を、豊潤な色彩で朗々と謳い上げて、宮廷人や聖職者の愛顧を獲得していました。加えて、像主の威風を力強く叙述した豪壮な肖像画でも評判を得ていました。作家と作品は別物ではありますが、観る者の気分を高揚させる躍動的な作品を創造したルーベンスの生き様は、画風と呼応するかのよう華やかなものでした。画家、外交官として精力的に活動し、英国とスペインで貴族身分に上昇した彼は、国際的なスターだったのです。

巨星を戴くルーベンス工房が隆盛を極める一方で、これに拮抗する勢力として活動していたのが、画家一族のブリューゲル・ファミリーです。彼らは、16世紀に風俗画のジャンルで一家をなしたピーテル・ブリューゲル(父)の子孫にあたります。ブリューゲル家の画家たちは、農村の暮らしや美しい花々などの世俗的な題材を取り上げ、巧緻な技術で平明な作品を制作しました。宗教主題と取り組む場合でも、観者が自然に作品世界に入っていけるように同時代の風景や風俗を描き込んでいる点に、注意が促されます。伝統と革新をテーマに、世俗画と宗教画の多様化を実現したのが、ブリューゲル一族の功績と云えるでしょう。

本展は、フランドル美術の黄金期に焦点をあて、歴史あるプラハ国立美術館の貴重な所蔵作品70点を特別に公開するものです。多様な作品から成る珠玉のコレクションを前に、至福のひとときを過ごすことを願ってやみません。

学芸員 武田 信孝



ピーテル・パウル・ルーベンス(聖アウグスティヌス)1636-1637年 油彩・キャンバス 232.0×153.0cm

フロアレクチャー

■日時:2月9日(土)、16日(土)
各回14時~15時

■場所:新館1F[企画展示室]

※事前申込不要。
ただし、企画展観覧券が必要です。

企画展プレビュー

「17世紀フランドル
絵画の魅力」

■日時:2月23日(土)、
3月1日(土)、8日(土)
各回14時~15時

■場所:新館1F[講堂]

※事前申込不要

美術体験講座

「マイ・コレクション・ブック」

■日時:2月24日(日)、3月2日(日)
各回14時~16時

■集合場所:
新館1F [エントランスホール]

■定員:各回先着20名

※事前申込不要。当日、材料費を200円程度
申し受けます。

企画展講座

「近世ヨーロッパの肖像画」

■日時:3月22日(土)
14時~16時

■場所:新館1F[講堂]

※要事前申込

●お申し込み方法など、詳細は当館までお問い合わせください。

真鍋博 — 星新一の挿絵 —

平成20年1月22日(火)～3月30日(日)

休館日は、本紙ご利用案内でご確認ください。

●会場 / 新館2階【特別展示室1・2】



真鍋博《星新一「ようこそ地球さん」(新潮文庫)》1972年

愛媛出身のイラストレーター真鍋博という名とそのイラストを、星新一の作品とともに憶えている方も多い事でしょう。

真鍋が、SF作家として知名度をあげていた星新一の作品にはじめて挿絵をつけたのは、「おーい、でてこーい」(『宇宙塵』、1958年)でした。その後、星の単行本3冊目となる『悪魔のいる天国』(中央公論社、1961年)の装幀と、ショートショート全36編全てにつけた挿絵を担当し、二人のコンビは決定的なものとなりました。以後、星の1000編を越えるショートショートのイラストの約3分の1を真鍋が担当することになり、和田誠と並んで、星の作品に真鍋のイラストは欠かせないものとなりました。「真鍋博さんの絵に文章をつけている星です」という星新一の自己紹介に象徴されるように、星の洗練された小説と真鍋の都会的な作風は分かち難く結びついています。

当館では、本年度1年にわたり、真鍋博を取り上げてきました。最終回となる今回は、昨年没後10年を迎え、再評価されつつある作家、星新一の作品に真鍋が描いた挿絵をご紹介します。学芸員 西田 多江

梅花礼賛— 芳しく気高き花—

平成20年2月6日[水]～3月30日[日] 休館日は、本紙ご利用案内でご確認ください。

●会場 / 新館2階【常設展示室1】

「春の花」と言えば、ほとんどの人は桜を思い浮かべるでしょう。実際、満開の桜並木は、いかにも麗らかな日本の春の情景として定着していますし、また、散り行く薄紅の花吹雪にも、日本人の情緒をくすぐる趣きと儚さがあります。そんな桜に対して、梅はどうでしょうか。まだ寒さ厳しい時期に楚々とした花を付け、馥郁たる香りを放って春の到来をいち早く知らせてくれる梅は、桜とは異なる気品があります。そんな梅もやはり、古来、日本人を大いに魅了してきた花です。

梅は主に中国文化との関わりの中で、愛でられてきました。中国では、厳寒に咲く梅は、一年中常緑を保つ松・竹とともに、高潔で志の高い人物にたとえられます。その代表が北宋の詩人・林和靖。彼は杭州西湖のほとりに庵を構え、庭に梅を植えて、鶴を飼い、俗世を離れて詩作に没頭しました。日本の芸術家たちも、文化人の象徴として彼に憧れ、その姿や暮らしに自己を投影し、その詩の世界を美術品の中に表しました。

今回は、所蔵品の中から梅花を主題にした絵画・工芸品を集めて展示します。美術鑑賞の後は、松山城へ梅見というのも一興です。学芸員 長井 健



垣川文麟《梅花書屋図》安政2年(1855)

あたたかな部屋で — 室内画の世界

平成20年2月6日[水]～3月30日[日] 休館日は、本紙ご利用案内でご確認ください。

●会場 / 新館2階【常設展示室2】

寒さの厳しいこの季節。室内で過ごす時間も長くなりがちではないでしょうか。そこで今回は、室内を描いた作品を集めてみました。

人が暮らす場である室内には、生活にまつわるさまざまなものが置かれ、長年使われた部屋には、そこに暮らした人の痕跡が刻まれます。室内に置き去られたものを描いた作品からは、その部屋にいた人の気配を感じとることができます。また、人物を描く際、背景として室内を具体的に描出すると、制作現場の様子を伝えたり、人物のもつイメージを膨らませたりすることができます。

画家たちにとって、室内は制作の空間、すなわち画室でもあります。モデルを前に試行錯誤を繰り返すこともあれば、自由に想像力を働かせて無限の絵画世界を展開することもできます。小さな特集展示ではありますが、部屋ともの、部屋と人とのかかわりを様々な角度からご覧ください。学芸員 箱田 千穂



長井功《暖》1971年

愛媛県県民総合文化祭20周年記念事業

COLOURS OF EHIME

井出創太郎

MAYA MAXX

ミヤタケイコ

愛媛の風土の中で生まれ、受け継がれている文化や暮らしを糸口に、作家、人、素材を結ぶアート・プロジェクトとして、井出創太郎（銅版画家）、MAYA MAXX（画家）、ミヤタケイコ（造形作家）を招き、愛媛の文化や素材より、それぞれ触発されたモチーフで公開制作と一般参加者とのワークショップを行い、それらの完成した作品発表を中心とした展示会を、昨年開催しました。

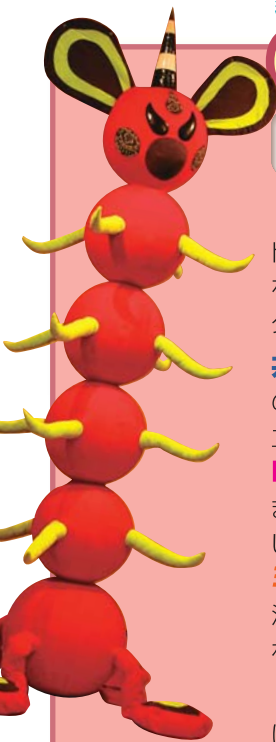
井出さんは、別子山に残る旧銅山の蘭塔婆をモチーフに、銅版で立方体の石膏に摺り、その複数の立方体を積み上げて蘭塔婆を形作りました。ワークショップでは、参加者が同じ技法で不定形の立体版画を作り、蘭塔婆を取り巻く森の姿を表しました。

MAYAさんは、郷里の今治タオルに染料を用いて、故郷のイメージを白いバスローブに表現しました。ワークショップでは、自分の好きな風景をテーマに、参加者が白いバスタオルに染料をたらしたり、手で塗ったりし、色のにじみや重なりを生かした風景を描きました。

ミヤタさんは、南予地方の祭りの牛鬼に興味を持ち、今治タオルと伊予餅を用いて、ミヤタさん流にアレンジした巨大な「ツノツノ」を制作しました。ワークショップでは、タオル生地の原型に、それぞれの感性ではぎれやボタンなどで飾り、手のひらサイズのユニークな牛鬼が出来上がりました。

このプロジェクトで、愛媛の素材をアートに変えていく作家の制作過程にふれたり、創造することに参加したりすることで、よりアートの楽しさ、魅力、作品と素材との関わりについて、深く受け止めることができたのではないでしょう

学芸員 石崎 三佳子



新しい作品ガイドボランティア スタッフがデビューしました!!

美術館ではこの度、昨年の6月から12月まで半年間・計15回にわたって、オニ[👹]のような指導教官のもと(注:本当かもしれません...)実地トレーニング中心に行われてきた第2期作品ガイド研修が無事終了し、新しいスタッフ・11名!がデビューしました。

愛媛県美術館のボランティア活動は、総合案内カウンターや図書コーナーで来館者のみなさんの対応やレファレンスを行っていただく「情報サービスボランティア」と、「対話型鑑賞法」を駆使し、展示室で来館者と作品とのコミュニケーションをお手伝いしていただく「作品ガイドボランティア」の2つの活動で大活躍中! 総勢130名のボランティアスタッフに支えられて日々の活動を行っています。新しいガイドスタッフはこの1月からはじまったミニ企画展「なぞなぞ美術館」~みることは考えること!!(常設展示室3)でみなさまをお待ちしています。どうぞお気軽に美術館にお越しください。

学芸員 鈴木 有紀



エッシャー展で「対話」に挑戦中!

INFORMATION

講演会「油彩画の修復について」のお知らせ

2008年3月15日(土)講演会 ●講演会 10:30~12:30
●公開調査 14:00~16:00

経年経過や保管の状態、災害によって作品が傷み、修復が必要になることがあります。当館所蔵の古茂田守介作「踊り子達」も火災による被害を受け、焼失したと云われていた作品です。十数年前、被害を受けたものの現存していることが解り修復されました。

今回はその修復を担当していただいた木島隆康氏(現、東京藝術大学教授)に、油彩画の素材構造から、古茂田の修復事例、油彩画の修復現状を分かりやすくお話いただく予定です。

また、講演会に合わせ、油彩画の公開調査も行いたいと思います。是非、見てもらいたい!と思われる傷みのある作品を所蔵されている方は、右記の募集要項に沿ってお申し込みください。当方で2点を選定させていただき、当日、公開で画面の状態、原因、修復方法を探ってみたいと思います。

3/15(土)公開調査の
作品を募集します。

募集

募集方法

- 2月26日までに油彩画で傷みのある作品写真等概要(作家名・作品名・作品寸法等)を美術館に提出してください。
- 当日作品を美術館に持参できる方に限ります。
- 3月5日までに公開調査に該当した作品の所蔵者の方にご連絡させていただきます。

※あくまで調査ですので、修復作業はいたしません。
※調査費は不要です。

平成20年度 展覧会の計画

多彩なジャンルの魅力ある展覧会を計画しています。お見逃しなく！

藤城清治 光と影の世界展

平成20年4月12日(土)～5月25日(日)

光と影で表現する絵画「影絵」を芸術の域にまで高めた藤城清治の世界を紹介します。黒と鮮やかな色彩との美しいコントラスト、モダンでありながら、郷愁を誘う風景や風俗、童話の幻想的な作品をお楽しみください。



《アリスのハート》2005年 ©Seiji Fujishiro/HoriPro

日仏交流150周年記念 イタリア美術とナポレオン展(仮称)

平成20年6月4日(水)～7月7日(月)

フランス領コルシカ島アジャクシオ市にある、フェッシュ美術館の貴重なコレクションが、日本で初公開となります。皇帝ナポレオン一世の叔父フェッシュ枢機卿が愛したイタリア絵画とともに、卿に縁あるナポレオン関連絵画・彫刻などをご紹介します。

サンドロ・ボッティチエリ《聖母子と天使》1465～66年頃
©Musée Fesch, Ajaccio. Photo : Jean-François Paccossi



八犬伝の世界展(仮称)

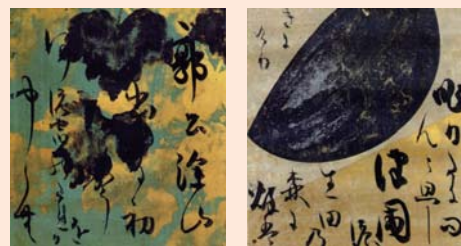
平成20年7月19日(土)～8月31日(日)

江戸後期に執筆・刊行された曲亭馬琴の代表作である読本『南総里見八犬伝』は、当時より近年にいたるまでその人気は続き、親しまれています。馬琴没後160年にあたる本年、関連する浮世絵、合巻、芝居関係の刊行物などにより、八犬伝の世界を紹介します。

美がむすぶ絆 ベルリン国立アジア美術館所蔵日本美術名品展

平成20年10月1日(水)～11月16日(日)

ベルリン国立アジア美術館(旧ベルリン国立東洋美術館)の設立100年を記念し、欧州屈指の質量を持つ同館のコレクションより日本の中世、近世、近代に至る絵画及び浮世絵版画約70点を紹介します。100年以上にわたる日独文化交流の一端を振り返る展覧会です。



俵屋宗達・本阿弥光悦「四季草花下絵和歌色紙帖」江戸時代初期

ジブリの絵職人 男鹿和雄展

平成20年11月22日(土)～平成21年1月18日(日)

「となりのトトロ」「おもひでぽろぽろ」などスタジオジブリの作品を中心としたアニメーションの背景美術を手がける男鹿和雄の展覧会を開催します。数多くの名シーンを支えてきた、叙情あふれる背景画をお楽しみください。

睦地梅太郎展

平成21年2月14日(土)～3月29日(日)

日本近代の創作版画運動を経て、独自の作風を築いた睦地梅太郎(宇和島市三間町出身)。その創造の軌跡をたどる展覧会です。今回、新出となる原画も加えて、山男シリーズなど親しみとぬくもりのある版画を紹介します。

《風景(小名木川附近)》1930年



友の会 会員募集

芸術に親しみながら、美術館の活動や運営を支援し、ご協力いただける友の会会員を募集します。友の会に入会すると

- 企画展や常設展など無料で鑑賞できます。
- 洋画や陶芸などの美術教室に参加できます。
- 美術館情報を定期的にお届けします。
- 研修旅行に参加できます。

など特典がいっぱい!皆様のご入会をお待ちしています。

お問い合わせ先 愛媛県美術館友の会 TEL.089-932-0147



美術館日記

美術館の場所いろいろ：撮影室

作品の写真を撮影する場所です。写真は展覧会の図録を含め、各種印刷物やグッズ等で使用され、作品を広く普及するためには欠かせません。また、収蔵品を画像データとして整理、保管することは、美術館の重要な任務といえるでしょう。撮影は、学芸員の立会いのもと、プロのカメラマンに委託し、各作品に適した手法で細部まで明確に写します。

作品には、卷子、軸、屏風、額装作品、彫刻、あるいは様々な形態の現代美術作品があります。撮影室は、こうした多種多様な作品を撮影するために必要な、天井の高い広い空間、スクリーン等の設備、各種照明器具を備えた大切な場所なのです。



ご利用案内 ■ 開館時間:9:40～18:30(入室は18:00まで) ■ 毎週月曜日(祝日及び振替休日)に当たる場合は、その翌日(ただし、毎月第1月曜日は開館、翌火曜日が休館。年末年始 12/29～1/3)

アトリエ 利用時間 9:40～18:30

創作活動のできるスペース、アトリエはどなたでも自由にご利用いただけます。

お申し込みは、お電話か、直接来館して予約してください。

●利用内容:版画・木工・染織・写真・粘土など

●お問い合わせ先:ふれあいアートセンター tel.089-932-0147

講堂・研修室・県民ギャラリー

講演会、研修、作品発表の会場として講堂(定員120名)、研修室(定員56名)、県民ギャラリー(12室)がご利用いただけます。料金等、詳細については、当美術館総務課まで、お問い合わせください。

ハトの声(編集後記)



今年は年明け2日からエジプト展を臨時開館し、かなりの来場者で賑わい、美術館では幸先のいいスタートを切ることができました。新しい年を迎え、変化や刺激を求めている方、ぜひ、美術館に来てください。さっと素敵なお利益がありますよ。(M.I)

■分館(萬翠荘)は、改修工事のため、平成20年9月中旬まで休館します。なお、愚陀仏庵及び茶房「あい」は、これまでどおりご利用いただけます。

2	3	4	5
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
. 1 2 1	. . 1 2 3 4 5 1 2 3
3 4 5 6 7 8 9	2 3 4 5 6 7 8	6 7 8 9 10 11 12	4 5 6 7 8 9 10
10 11 12 13 14 15 16	9 10 11 12 13 14 15	13 14 15 16 17 18 19	11 12 13 14 15 16 17
17 18 19 20 21 22 23	16 17 18 19 20 21 22	20 21 22 23 24 25 26	18 19 20 21 22 23 24
24 25 26 27 28 29 .	23 24 25 26 27 28 29	27 28 29 30 . . .	25 26 27 28 29 30 31

● = 休館日



愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
TEL 089-932-0010 FAX 089-932-0511
http://joho.ehime-iinet.or.jp/art/